

稲作速報

第5号

発行 JA金山
行 営農部

・今後の稲作
管理
・作況圃生育
調査結果
・営農情報他

「晴天続きにより、初期生育は順調」 「水不足を懸念」 きめ細かな管理対応を！

田植え時期から続く好天候により活着は良好で、初期生育は順調な生育経過となっている。5月中にほとんどの田植えが終わり、6月に入っても気温が高く経過しており今後の生育も順調に経過するものと予想される。しかし、5月下旬から晴れの日が多く、気温が高い日が続いたことから、梅雨入りの時期如何によっては水不足に注意が必要となる。

左表は、5/31の「はえぬき」の生育調査結果である。田植え時の天候がよく活着が良好で、草丈・葉令共に平年をやや上回っており、草丈は1.0cm長く、葉令も0.4葉多い状態で、平年より2〜3日早い生育状況。2回目の調査を行なっているが、草丈の伸びも良く、徐々に分けつも発生しており、順調な稲生育経過と見られる。但し個人差もあるほか、ほ場内のワキが見えていないため、今後もきめ細かな万全の管理が大切である。

「葉色は「並」。雑草・病害虫発生もほぼ「並」

葉色も上がり、葉伸びや葉巾もできており、今後、稲は分けつ盛期へと入っていく。当面は稲自体にまかせる水管理を中心とし、つなぎ肥等は控える。ヒエ・草等の発生も出てきているが、全体的には、一発除草剤等の効果はまずまず。ただし、水管理条件や散布遅れ等によるヒエ・ホタルイ・シズイ等の発生も見えるので、残草対策は万全にしておきたい。また、病害虫発生については、近年、補植苗からの葉イモチ病発生が中心となっており、補植苗の早期処分と、今後も計画的な防除を進めていく。

5月31日生育調査結果(はえぬき)

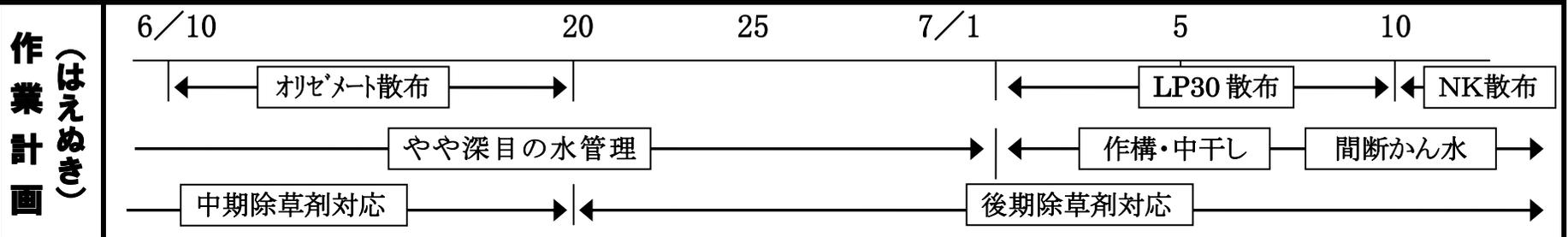
		R1	H30	H29	平年
6/1	草丈 cm	21.9	22.0	24.3	20.9
	茎数 本	4.9	5.0	5.5	5.4
	葉令 葉	4.7	4.7	4.4	4.3
6/10	草丈 cm	-	28.5	26.8	28.0
	茎数 本	-	6.8	6.8	8.0
	葉令 葉	-	6.0	5.2	5.9
6/20	草丈 cm	-	33.8	30.7	34.0
	茎数 本	-	13.7	11.1	17.8
	葉令 葉	-	7.8	6.7	7.7
7/1	草丈 cm	-	43.8	36.5	44.8
	茎数 本	-	23.3	21.5	27.3
	葉令 葉	-	9.6	8.3	9.2

※R1は5/31生育調査結果です。

「今後の稲管理は生育に合わせた適期管理で」

今のところ生育は順調に来ており、今の状況を継続していくため、今後も引き続ききめ細かな水管理を中心とした適期管理に努めてほしい。これから稲は、分けつ盛期から穂づくり期へと移行していく。作溝・中干し・穂肥等と続くので、当面は下記を参考に、あわせて稲管理を進めよう。

今後の稲作管理(6月中旬～7月上旬)ポイント



1. 水管理・作溝・中干し

(1) 水管理—節水(ムダ水防止)管理で—

・**基本的には、やや深目の水管理(7~10cm)**にて、引き続き約6月いっぱい管理として行く。但し、茎数の少ない(現在1株約5本以下)田んぼにおいては、当面は**やや浅目管理(4~5cm)**とし、茎数促進に努める。

・なお、中干し以降の水管理は、**間断かん水(2日灌水2日落水)**に切り替えて、足跡に水がある程度を維持していく。

(2) 作溝・中干し—基本は早めの対応—

・**中干し**…通常は、**7月上旬(稲9葉期・出穂35日前後)**からの管理とするが、無効分けつの抑制を図る上では、**有効茎数(目標茎数)一株当たり20~24本**(70株植えは20本位、60株植えは24本位)確保後に、中干し作業に入る。中干し程度は、「**小ヒビの入る**」程度とし、あまり強すぎて下葉を枯らす程の強い中干しはさける。

・**作溝**…中干し後に土がしまってから、**3~5m間隔**に行うが、今後の水管理と秋作業の為に**ぜひ実施**してほしい。尚、中干し前(6/20~)の灌水作業はやりやすく、深目の水管理状態を1週間位保つ様にするとうい。

2. 防除・除草

(1) 葉イモチ病

・毎年発生源となる**補植苗**が、万一まだ田んぼにある人は「**至急処分**」する。

・最低気温15℃以上で降雨2~3日続くと、葉イモチ病発生の時期となるので、**箱処理剤**(スタウトダントツ粒剤、ブイグットパティート粒剤等)を使用した田んぼ以外は、**6月10日~20日**までを目途に、**オリセメント粒剤の散布(1kg/10a)**をする。

(2) カメムシ

・県防除所の発生予察では、今年も「**多い**」と見られる。**近年の多発生等もあり**、当面は畦畔(アゼ)・農道・転作田等の草は、**こまめに草刈**しよう。尚、出穂期に入ってから草刈はやらない予定で!

(3) 除草剤 —残草対策(裏面参照)—

・今の所まずまずの除草効果にあるものの、この晴天で急激な発生状態ともなっており、例年通りヒエ・草の残草も見られる。雑草の種類を確認し、**天気の良い日(2~3日)を選んで**、下記の除草剤対応とする。

- ①ヒエだけ…ヒエ4葉期までに、ヒエクリーン粒剤・豆つぶ又はクンチャー粒剤(1kg/10a)
- ②ヒエ+雑草(中期剤)…ヒエ3.5葉、雑草2~4葉(3~5cm位)までにワイドショット、レプラス(1kg/10a)等。
- ③大きい雑草のみ(後期剤)…落水しての(6/中~)、バサグラン粒(3kg/10a)か液剤(500cc/水1000・10a)。
- ④大きいヒエ+草(後期剤)…クンチャーパスME液を10a当り1000cc(2本)/水1000

3. 追肥(穂肥)

(1) つなぎ肥

・現在、土壌中の残存窒素量は「平年並」傾向にあり、今後も地力窒素発現が見込まれるので、**基本的には行わない**。

(2) 穂肥(分施)

・**LPコート30の場合**…出穂前30~35日目の散布とし、平年出穂での散布時期は、

あきたこまち・ヒメノモチ	6/30~7/5
はえぬき	7/3~10

施肥量は、**10a当たり10kg(1袋)**散布とし、その後の分施(NK)は必要としない。

・**NK化成の場合**…出穂20~25日目の散布となるので、(今年は早い田んぼでも7/7以降の見込み)詳しくは次号で紹介。当面は、**穂肥の出来る稲づくりを進める**。

～ 稲作用語講座 Vol. 3 ～

3回目となりました「稲作用語講座」、今回は「中干し、防除・除草時期編」です。

－ 分けつ －

稲の葉は、茎にある節から左右に交互にでます。また、親株の節から新しい茎が出てきます。これを「分けつ」といいます。現在は「分けつ初期」にあたり、6月下旬には「分けつ後期」、7月上旬に「最高分けつ期」を迎えます。この頃になると稲の株が太くなり田んぼが稲の緑に覆われるようになります。

－ いもち病 －

稲にとって最も恐るべき病気で、育苗期から成熟期まで発生します。発病部位によって名前がつけられており、育苗期～分けつ期の「葉いもち」、出穂後の「穂いもち」などがあります。気象要因による発病がほとんどですが、窒素成分の過剰により発病する場合があります。

葉に褐色の斑点ができ、次第に拡大して内部が灰色、周りが褐色のひし形状の病斑ができ、ひどくなると稲の生育が止まり、枯死していきます。冷害と併発することが多いため、収量が落ちる原因となります。

～次回は、穂肥、防除編の予定です～

～ 営農トピックス ～

1. 「米契約・転作関係」の年間計画

5/28～30	地区座談会
6/上	産米出荷契約書提出期限
7/上	転作確認(1次)
〃	H29加工米精算予定
〃	R1出荷契約金入金(@3,000/1俵)
7/上～中	稲作相談会
8/上	年特座談会
8/下～	特別栽培米等水稻管理記録表提出
9/上	転作確認(2次)
9/中～	米集荷作業開始
10/末	水稻栽培管理記録表提出期限
12/下	H30年産米最終精算予定
〃	経営所得安定対策等交付金入金予定
2/下	R2年産米販売戦略と作付計画(座談会)

2. 一営農部「生産資材」情報

日頃より、ご利用頂きありがとうございます。生産資材窓口は、4月より休日(日曜日・祝祭日)の1日対応を致しておりますが、6月より8月いっぱい、午前中のみの半日業務とさせていただきますので、ご協力よろしくお願ひ致します。引き続き、お気軽にご利用願ひします。

3. 「稲作相談会」の開催

稲の生育は順調に経過している状況の中で、恒例の穂肥(分施)対応を中心とした「稲作相談会」は、今年も7月上旬～中旬に予定しています。なお、集約化にご協力を頂き、後日実行組合長よりご案内して頂きますのでよろしくお願ひします。

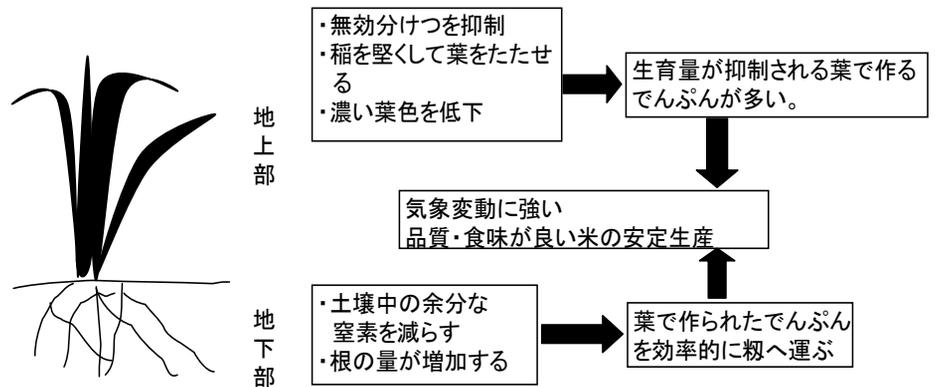
= 営農情報 =

1. 雑草対策 (年特品目除草剤一覧)

品名	適用雑草	10a当り使用量	規格	当用価格(税込み)	
ヒエ剤	ヒエクリーン粒・豆つぶ	ヒエ 始～4葉で、発生抑制効果もある	1kg 250g	1kg 250g	1,760 1,930
	クリンチャー粒剤・ｼﾞｯｼﾞ	ヒエ 4葉～5葉で速効性	1～1.5kg 1袋(20パック)	1kg 1袋	1,440 2,290
	クリンチャーEW	ヒエ 6葉期まで 速効性	100cc 水/70～100ℓ	100cc	1,840
中期剤	ザーベックスDX粒剤	ヒエ3～3.5葉、下記雑草2～3葉(3～5cm位)とシズイ、クログワイ3cmまで	1kg	1kg	1,970
	マメットSM粒剤	ヒエ3～3.5葉、一年生雑草と主にホタルイ、オモダカ4～5葉(5～7cm位)	1kg	1kg	2,060
	ワイドショット粒剤	ヒエ4葉期、ホタルイ4葉期、クログワイ20cm以下、オモダカ30cm以下	1kg	1kg	3,250
	レプラス粒剤	ヒエ4葉期、ホタルイ10cm以下、クログワイ20cm以下、オモダカ矢尻葉1葉期	1kg	1kg	3,480
後期剤	バサグラン粒剤	全ての広葉雑草(落水～やや湛水散布)	3kg	3kg	2,860
	バサグラン液剤	全ての広葉雑草(落水散布)	500cc～700cc 水/70～100ℓ	500cc	1,820
	クリンチャーバスME液	上記の雑草+ヒエ5葉期(落水散布)	1,000cc(2本) 水/70～100ℓ	500cc	1,780

- ① **ヒエだけ(湛水または落水散布)**…ほとんど出揃ってきたのでヒエ 3.0～4.0 葉中心にヒエクリーン粒剤又はクリンチャー粒剤での対応。クリンチャーEWの場合は落水散布。ヒエ専用剤で部分散布も可能。
- ② **ヒエ+雑草(湛水散布)**…中期剤は稲5葉期以降での使用(現在、ほとんど可能)とし、ヒエ 3.5 葉までと、出始め～3葉位(3～5cmの水から出ない位)の全雑草にはザーベックス DX 粒剤・レプラス粒剤の散布。ヒエ+一年生雑草とホタルイ・オモダカ中心にはワイドショット粒剤・マメット SM 粒剤。
- ③ **雑草だけ(落水散布)**…概ね6/20以降、②以上の大きさになったシズイ、クログワイ等の全広葉雑草(～8葉、草丈15～20cm)の雑草処理。**2～3日の晴天時に、落水～やや湛水してのバサグラン粒・液剤散布。部分散布でよい。散布後3～4日間は入水しない。早目の対応が確実です。**
- ④ **ヒエ+雑草(落水散布)**…上記の雑草+ヒエ～5葉の時は、クリンチャーバス ME 液剤(10a/2本)の落水散布。部分散布でよい。**2～3日の晴天時とし、3～4日間は入水しない。**

2. 作溝・中干しの効果



3. 今後の気象予報

今年も、育苗～田植え時期までは好天候に恵まれ、順調に作業が進んでおり、今のところ水不足に対する心配はなさそうである。

6月に入っても気温が高く、活着がすすみ植え痛みも解消されてきて、稲体しっかりしてきた。しかし、今後の天気は雨や曇りの日が多く葉いもちに注意が必要となりそう。

「東北地方1か月予報」(6/6.仙台管区气象台発表)においては、気温は平年並で、曇りまたは雨の日が多い見込みとなっているが、油断は禁物の状態になりそう。

(3週目) 6/9～15	(4週目) 6/16～22	(5週目) 6/23～6/29
数日の周期で変わりますが、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。	平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。	平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。

なお、**当面の技術対策**としては、①雑草の発生が早くなっているため、除草剤散布は遅れない。②土壌還元(ワキ)が強く、生育停滞が見える場合は、水交換等に努める。